

(様式第6号 別紙)

長崎県福祉サービス第三評価結果報告

①第三者評価機関名

医療福祉評価センター

②事業者情報

| | |
|-------------------|------------------|
| 名称：わーくあぐり | 種別：生活介護 |
| 代表者氏名：田島光浩 | 定員（利用人数）：39名 |
| 所在地：長崎市葉山1丁目13-23 | TEL：095-865-9102 |

*施設・事業所情報は、事業所プロフィール参照

③施設・事業所の特徴的な取組

わーくあぐりでは午前中は仕事（馬の世話、畑仕事、公園のペットのえさの管理等）午後は余暇（プール、カラオケ、園芸活動等）と活動を組み合わせることによりメリハリのある、いきいきした生活を支援している。
また、自立課題（一人で取り組み、一人で完成できるように工夫された課題）という支援を取り入れ、お昼休みにパズルやボタンの整理を自発的に行い落ち着いて時間を過ごすという成果が表われている。

④第三者評価の受審状況

| | |
|---------------|--|
| 評価実施期間 | 平成30年2月1日（契約日）～ 平成30年11月9日（評価結果確定日） |
| 受審回数（前回の受審時期） | 初回 |

⑤総評

◇特に評価の高い点

(事業計画の策定と見直しに対する組織的取組み)

法人統一の書式により、中長期計画作成時に現在の状況・課題と3年後の目標とする姿を項目ごとに挙げ、その差を埋めるためのステップを設定し、それを具体的に単年度の事業計画として作成し、さらに事業工程表で月ごとの実施予定を立てている。月次報告の作成によって定期的に達成度を振り返っており、中長期計画の作成から実際の具体的な事業実施内容までの落とし込みと達成度の確認ができており、PDCAサイクルを回す仕組みが組織的でできている。

(ITを活用した情報共有)

法人本部の統括したITを用い、各事業所への書式の統一や情報の伝達・共有・記録が成されている。さらに、日々の支援記録がスマホやタブレットでタイムリーに入力でき、言葉よりも伝わる動画や写真の活用を行っている。複数のサービスを利用している利用者の支援記録を共有することがサービスの向上につながっている。

◇改善を求められる点

(地域の福祉ニーズに対する公益的な活動)

運営推進会議を行い地域の人々の意見を聞く機会があるので地域の福祉ニーズを積極的に収集し、事業所の利用者に対するサービス向上だけでなく、地域に根ざした施設についての公益的な活動（講演会、研修会、地域交流イベントなど）を検討していただきたい。

(事業所の支援マニュアル作成)

現在身体介護が必要な利用者が比較的少ないため支援方法の指導は先輩職員のOJTを中心に行われている。職員の移動や新人職員の配置なども定期的に行われており、福祉サービスを提供する職員誰もが必ず行わなくてはならない基本となる部分について、職員の違い等による福祉サービスの水準や内容の差異を極力なくし一定の水準、内容を常に実現することを目指した支援マニュアルの整備を期待する。

⑥第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

初めての第三者評価をさせていただきました。

自己評価を全職員で時間をかけて行いました。

行っていく中で事業所の現状の理解、共通認識が持てた事が大きかったです。

また、事業所の強みや弱みを詳しく知ることが出来ました。事業所内での食事や排泄に関するマニュアルも必要なのが分かり直ぐに作成する事も出来ました。

改善すべき点を明らかにすることで取り組まなくてはいけない課題を共有化でき取り組む事が出来たと思います。

⑦第三者評価結果

別紙の「第三者評価結果」に記載している事項について公表する。

⑧利用者調査及び書面調査の概要

(別紙)